

絵本塾 2015年 merry Christmas 音楽♪

おはなしのへやだより 12月

2千年前
ユダヤのベツレヘムに生まれた
一人の男の子

サイレント・ナイト
その夜
救い主はお生まれになった



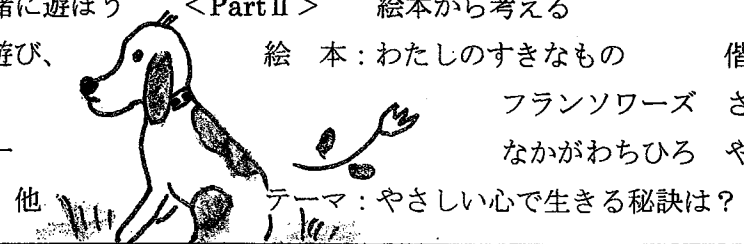
本格的な冬の到来、吹く風が冷たく陽だまりが嬉しくなる季節となりました。午後2時を過ぎると日暮れが一気に押し寄せてきます。大人も子どもも我が家への足取りが思わず急ぎ足になりますね。

暗い夜空がクリスマス・イルミネーションに彩られるこの季節、二千年余り前、イエス・キリストのお生まれを祝う初めての夜空には大きな星が輝きました。導きの星です。一年の歩みを振り返り、新しく迎える年に想いを向ける今の時、愛する家族、子どもたちに、また人それぞれに、導きの星が輝いているといいですね。

2016年 1月のご案内

日時 1月 8日 (金) 午前10:30~12:00 昼食
場所 日本キリスト改革派 浜松教会 (お問い合わせ: 望月鈴子へ)
(432-8022) 中区山手町45-3 ☎: 053-453-1694
会費 500円 (一人でも親子何人でも) 講座、昼食、お便り

<Part I> 一緒に遊ぼう <Part II> 絵本から考える
手遊び、リズム遊び、絵本: わたしのすきなもの 偕成社
絵本 フランソワーズ さく
パネル・シアター なががわちひろ やく



心に語りかける絵本

小さなことに心をこめて

詩集 「年輪」より
星をうごかす少女
クリスマスのページェントで
日曜学校の上級生たちは
三人の博士や
牧羊者の群れや
マリヤなど
それぞれ人の目につく役を
ふりあてられたが
一人の少女は
誰も見ていない舞台の背後にかくれて
星を動かす役が当たった

「おかあさん、私は今夜星を動かすの
見ていて頂戴ね・・・」

その夜 堂に満ちた会衆は
ベツレヘムの星を動かしたものが
誰であるか気づかなかつたけれど
彼女の母だけは知っていた

そこに少女のよろこびがあった



紙芝居 星をうごかす少女
原作: 松田明三郎
脚色: 澤谷由美子
キリスト教視聴覚センター

紙芝居「星をうごかす少女」のもとになったのが左記の散文詩「星をうごかす少女」です。詩の中にある「ページェント」とは「降誕劇」と言われ、聖書に記されているイエス・キリストのご降誕の物語を劇にしたものです。教会学校ではクリスマスの時、このページェントをよく上演します。

劇に参加する子どもたちは、できれば主人公とかそれに準ずる役などやりたいものだと思います。紙芝居の中の少女・めぐみちゃんにもやりたい役がありました。でも、先生から振り当てられたのは星を動かす役でした。台詞はありません。誰の眼にも見えない舞台の裏でただ星を動かすだけです。その役を引きうけたものの、心は満足していません。

お母さんにその不満をぶつけます。めぐみちゃんが投げ出した脚本を読んだお母さんは、星を動かす役がとても大切な役であることがわかり、「この役ができる子は、すばらしいと思う・・・お母さん、必ず見に行くわよ」と言うと、めぐみちゃんも「・・・わたし、やってみる」とその役を一生懸命やりました。

人の目には小さなつまらないような事でもまかされたことを心を込めてやり遂げることはとても大切なことです。私たちの日常はほぼ同じことを繰り返しながら、小さなことを積み重ねながら人生という歴史を刻んでいきます。小さなことを大切にしていくなかで、大きなことに取り組む力も養われてくるのではないのでしょうか。

この詩は、もう一つ大切なことを教えてくれます。《その夜 堂に満ちた会衆は ベツレヘムの星を動かしたものが 誰であるか気づかなかつたけれど 彼女の母だけは知っていた そこに少女のよろこびがあった》 他人には気づかれないような舞台の裏の役だけど、自分のお母さんだけはこのことを知っていて見ていてくれる!! 自分を「見ていてくれる目」は、子どもにとって、生き活きと動き、学び、生きていくための大きなよりどころなのです。

めだたない、はなやかでない、人には気づかれないような事、価値があるとは思えない役割や働きがたくさんあります。日常の生活の小さなことに、隠されているような事でも、「きちんと心を込めて取り組んでいる姿」を、お父さん、お母さんは見てくれている。このことが子どもを安心させ心を平安にしてくれるのではないのでしょうか。

「隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる」。(聖書)

望月鈴子